

つくしだより



令和3年9月号

都議会政党ヒヤリング報告

都連会長 眞壁 博美

2021年度都議会各党派ヒヤリングは、8月27日(金)から始まりました。昨年に引き続き、コロナ禍の中ですので、東京つくし会役員・理事だけに参加者を絞りました。今年度の重点項目である

1, アウトリーチ(訪問診療) 拡充で精神科医療に繋がってください。
2, 思春期における精神疾患の早期発見で教育の保障をしてください
について詳しく説明をしてみました。

★職員の雇用の安定を!

すでに平成26年度からアウトリーチに取り組み始めている練馬区では、区内の6カ所の相談所に8名のアウトリーチ専門の相談員が配置されており、昨年度は年間600件以上の相談がありました。しかし、一人の欠員が出たので、職員の募集をしましたが、単年度契約であることや給与が少ない等の理由で、補充ができないという問題が出てきました。このことは、学校のスクールカウンセラー等にも当てはまることです。スクール

カウンセラーも学校に毎日いるわけではなく、非常勤職員です。児童・生徒たちから相談されたことが、学校の他の教職員と連携してどれだけ取り組めるかということを考えて、職員の常勤職員化は極めて重要な課題です。スクールカウンセラーの充実とともに、新たに複数の精神保健福祉士の配置も要望しました。それは、学校で精神疾患が疑われる場合に医療に繋がったり予防策に対応できる為です。

★教職員の研修の充実を!

精神疾患の発症年齢の半数は十代半ばまでに発症することを考えると、小学校高学年から、中学生にかけての義務教育の中で、子どもたちに精神疾患教育をしていくことは大変大事です。また、日頃から大勢の子どもたちに接している教職員が、異変に気付いたときに、親にどう伝えるかはとても難しいのです。私たち家族も、自分の子どもが精神疾患に罹っていることと認めることはなかなかできません。「先生はうちの子をそんな目でみていたのか」と一気に信頼関係は壊れてしまいます。

親たちに上手に伝えていくスキルを身につけてもらうための研修を充実させていくことは大変重要です。

★子どもたちが興味・関心をもてるツールを使って

子どもたちへの啓発のために、2016年3月に発行したリーフレットを毎年発行して中学2年生に配付していただきたいという要望を聞いた思春期の子どもを持つ女性議員さんからは、

「最近の子どもたちは、印刷物を配ってもなかなか読んでくれません。動画のようなものを作っても子どもたちに興味を持ってもらえないようにした方がよいのではないだろうか」という積極的な発言をいただき、「なるほど」と思いました。

来年度の政党ヒヤリングこそは、以前のように多くの家族会員が参加して話を聞いてもらいたいと思います。1日も早いコロナの終息を願っております。



みんなねっと大会の基調講演について

都連理事 江頭 由香

私は当事者の弟とは長年別に暮らしていましたが、母亡き後、弟が同居を望まなかったため同居を選びました。四十年近く前の発病時に重かった陰性症状が改善され、日常生活が普通に送れると考えたことが、同居選択の大きな理由でした。

しかし、生活を共にする時間が長いと、弟への接し方に悩むことが多く、結果として弟を追い詰め病状が悪化し数十年ぶりに再入院、病状悪化の影響で私のストレス、疲労もひどく、私も体調を崩しました。病院、福祉部門は当事者を支えることが中心で、私が個別相談したところ「理想をいえばきりがない」と回答されたこともありました。当事者の負担を考慮したご意見なのですが、当時は、家族の負担の大きさに悩みました。家族教室や参考書籍は、病気の説明、生活を支える公的支援制度説明が中心で、家族心理教育が少なくないと思います。また公的支援制度は、病状により自立できない方の場合、家族が支えることが前提ですが、病状を理解する病院と生活を支える福祉部門が連携した支援も少なく、とりまとめる家族の苦勞も知りました。私は家族会で相談先を知り生活は落ち着きました。が今後どんな問題が起きるかわからないので不安です。

調布かささぎ会では、家族が生活を支えている家庭が多く、将来的にも当事者、家族共に自立への不安は大きく同居を続けざるを得ないというお話を伺います。一般的にも、家族が地域での生活を支えている家庭は多いそうです。家族が当事者の生活を支えている家庭にとって、今回の基調講演「当事者・家族が生き生きと地域で暮らしていくために」医療・福祉の連携は重要なテーマだと思えます。また、自立されている当事者、家族にとっても安心して暮らしていくために重要なテーマだと思えますので、大会に参加し講演を聞いていただきたいと思います。



民間相談機関連絡協議会

通称「民相連」のこと

副会長 本田 道子

聞きなれない名前です。相談業務を行っている都内の各団体の集まりで会長は山崎美貴子先生。「いのちの電話」をはじめとして現在は都内48団体が加入しているネットワークでつくし会もメンバーの一員です。

情報交換や学習会を持ち、相談スキルのア

ップ、相談員自身の健康を保つための研修会などを行っています。がここもコロナで協議会としての活動が制約を受けていて「アサーティブ」の研修などは開かれなままです。

年1回の総会の時には講演会を開き、その後で総会という流れです。

今年は7月17日、場所はいつもの飯田橋セントラルプラザ。東京ボランティア・市民活動センターで行われました。

今回の講演会は

「外国にルーツを持つ人々への支援」多文化ソーシャルワークの実践方法と課題」というテーマと

「日本に暮らす外国ルーツの方々の困難と共に生きる相談と実践」というものでした。


つくし会では外国ルーツの方からの相談というケースは、私が受けた中ではありませんでした。でもたくさんの方々がこの東京にも暮らしております。その中には「こころ」の問題を抱えている方もいるはずで、日本人の私達でさえ医療と結びつくまでのたくさん人の困難を思うと、そのハードルの高さに心が痛みます。

今は力不足の私ですがその方々にも寄り添いたい、という気持ちだけでも、せめて持ち続けていたい、と願ったことでした。



障害年金相談について

都連理事 江頭 由香



東京つくし会では、2014年より社会保険労務士の資格を持つ都連会員・立川麦の会副会長岡田氏を中心としたグループにより、障害年金相談を行ってきましたが、このたび、岡田氏の一身上のご都合により終了することになりました。2014年より50件という多くの相談に対応し、32件の受給に結びつけていただきました。家族だけでは解決が難しい障害年金に関する相談に対応していただき、お礼を申し上げます。

最近の相談状況は、面接相談が必要なためコロナウィルス影響で外出が難しいことから、相談件数は比較的少なめになりましたが、一方で新規にいただく相談は困難事例が多く、解決までに時間がかかるケースが増えています。今回相談は中止することになります。既に受け付けた相談については継続していただけるのご連絡をいただいております。

今後の新規の相談については、現在、新たに担当していただく先生との体制を準備中です。新規受付ができるようになります。 「つくしだより」でお知らせしますので、もうしばらくお待ちください。

申込みの流れ、必要書類は、これまで同様左

記のとおり予定です。新規受付が可能になった際に、変更点も含め改めて詳細をお知らせします。

・申込みの流れ

①相談者は東京つくし会事務局を通して「年金相談申込書」により申込み。 ②相談者と事務局担当者の連絡により面接相談日を設定。 ③一回の面接で終わらない場合には、継続して相談。

・必要書類


①年金相談申込書（東京つくし会で準備したフォーマット） ②年金加入状況証明書 ③できれば高校から現在までの毎年の状況（精神科、内科など科を問わずの受診歴、就学、就労、休みなど）



精神科病院×新型コロナ

（ETV特集）報告

理事 大山 竹彦



都立松沢病院では昨年の4月精神科患者の新型コロナ感染専用病床を20床設置。一年間にわたる取材により、新型コロナは精神科病院の問題を明らかにしてしまいました。

武蔵野中央病院で職員の感染が発生、職員から患者へ次々感染。松沢病院に送られてきた患者は高齢、持病持ちの方が多く、時には、家族や本人の同意がとれない中、命を守るために気管切開を決めました。

×病院で200人規模のクラスター発生。

床つれでお尻の骨まで壊死している患者が

搬送されました。満室の状態で、隔離する部屋がなく、感染が広がりました。

Y病院でもクラスターが発生。松沢病院に搬送された患者は、何日もおむつ交換がされていない状態でした。当事者によると「勝手に感染者を集めて鍵をかけてしまった。風呂も入れてくれないし、保健所の人も自分たちが閉じ込められているところまでは見に来ない」とのこと。保健所は取材に応じません。厚生労働省は「個別の質問にはお答えできません、指導は都道府県で行うべきこと」と逃げの答弁。松沢病院と都からY病院支援に入り南京錠は事実でした。松沢病院院長の齊藤先生は、「ここに送られてくる人は、社会的にすごくパワーのない人たちばかりです。守ってくれる家族もないし、長いこと病院にいて、社会的に根を切られた人たちです。何か起きた時にひずみは弱い人たちの所に行きます。セイフティネットを細らせないことに思いを致すべきです」とコメントしていました。

この一年間で感染者が発生した精神科病院145、感染者4600人以上となっています。東京大会全体会での記念講演が、とても楽しみです。



「闘病記」

都連理事 松沢 勝

☆賛助会費☆ (敬称略)

多摩病院	10000円
大田区つばさ会	5000円
田鹿医院	5000円
岡本 友恵	5000円
榎本クリニック	5000円
明神下診療所	5000円

☆講演会のお知らせ☆

※講演会はコロナウィルスのためやむなく中止・延期になる場合もありますので事前に主催者にご確認下さい。

○10月9日(土)

「再発をしないために大事なこと」

講師 精神科医・大泉病院社会医療部長

山澤 涼子氏

会場 新宿区立障害者福祉センター

主催 新宿フレンズ ☎03-3987-9788

この5月1日から歩行が困難な状態である。朝のスポーツクラブからの帰りに、自転車を出すとき尻餅をついて腰を打った。家で休んでいるうちに段々痛みが下半身に移り、歩くのが辛い状態になった。医者に診て貰おうと家内にタクシーを呼んでもらい整形外科クリニックに出かけた。診断は、5つの腰椎の上から二番目の椎間板が潰れており全治3ヶ月とのことであった。それ以来3ヶ月経過した。静止時の痛みはとれたものの歩行時の痛みは治まらない。強い鎮痛剤を処方してもらったが、副作用で身体の平衡感覚が狂い、歩行時に身体が揺れる状態である。

歳が歳だけに(84才)、色々障害が出て来ているが、今回は本格的なダメージである。年齢は身体だけではない。家屋、電機製品、家具にもあるようだ。自室の天井にある蛍光灯も寿命がきたが、脚立に立つのが怖くて家内に取り替えて貰った。5年前に家の中のバリアフリー化をしたとき設けた階段の手すりが、今回大いに役に立っている。寝室の10年もののクーラーもダウンしたので大型のものに切り替えた。テレビも不調となり取り替えた。この話を家内にしたら、替えないのは私だけですと返ってきた。



東京つくし会のホームページをぜひ周知・ご活用ください！活動や学習会の案内や家族会紹介など、さまざまな情報を掲載しています。

またご覧になったご意見、ご感想をお待ちしています。

<http://ttsukushi.sakura.ne.jp/>

編集後記

パラリンピックの報道が、毎日障がい者の素晴らしい活躍を伝えていきます(9月1日現在)。私のような怠惰な人間には足元にも及びかない技術のレベルです。

オリンピックも一般の庶民は無観客でしたが、華やかな内に終わりました。この時期のオリンピックの開催に疑問を持っていた私も、結局はテレビ観戦で興奮して見てしまいました。ところで、金メダルを取った人の中には、「努力すれば必ず報われます。私は、苦しいことを乗り越えて一生懸命努力しました。」と誇らしげに語る人がいます。そうです、そう言い切れるあなたは素晴らしい！

しかし、私のように努力しても、報われなかった人、頑張れない人という圧倒的に多数の人は、「君の努力が足りなかったからだ。」と切り捨てられて良いのでしょうか。確かに、勝負事は勝ち負けが大事だという事は分かります。しかし、私はそれより大事なことは、結果よりもその過程にあるのでは無いかと思います。頑張ったか、頑張らなかつたかは自分が一番良く知っています。

その自分を大切に生きていきたいと思えます。

都連副会長 轡田 英夫

つくしだよりは赤い羽根共同基金の配分を受けて発行しています。